

■ 編集後記 ■

我が国に正規に理学療法士が誕生して四半世紀になる。しかし、当然ではあるがその歴史の前半においては、理学療法士の質・量の問題や理学療法に対する周囲の認識不足もあって、現在のように、超急性・急性期(主に impairment)から慢性期(主に disability),そして在宅ケア(主に handicap)に到る総合的対応はできていなかった。最近になってやっと、理学療法が医療の主流の中で活躍する場面が顕著になってきたと感じられる。しかしまだ、その兆候がみえ始めたという段階であり、さらに理学療法士の質・量を確保することにより、国内各地でより総合的理学療法サービスを提供できるように努めなければならない。そのような日は、そう遠くない将来に実現すると確信している。

今月号の特集は『急性期の理学療法』である。その中で本誌では初めてであると思うが、「救命救急センターにおける理学療法」について加藤氏他に紹介していただいた。理学療法士の役割としては、二次的障害の予防、運動機能の回復、そして救命後の配置などが主なものである。旧来のICU,CCUよりもさらに高度の救急医療が可能なシステムになっている。患者の残存機能を最大限引き出す前提条件の一つに、二次的障害の予防がある。救命だけでなく、転院先の医療機関



で患者が効率的な理学療法を継続して受けられる下地をつくるという意味からもきわめてたいせつな部門である。私はこの種の役割を、いわゆる理学療法の primary care として位置付けることはできないかと思うのだが。

「未熟児の理学療法」についても徐々に定着しつつある。今回は6年前よりこの領域に力をいれている石川県立中央病院の宮腰氏他に紹介していただいた。また、岸川、畑、今井氏他には臨床の実践活動を踏まえ、それぞれの領域における急性期理学療法について貴重な情報を提示していただいた。

いま金沢はどこを見ても桜が満開である。やはりこの季節は身も心もうきうきする。せめてうき(雨期)がやってくる前に、おおいに浮かれておくべきか。

(奈良 勲)

理学療法ジャーナル

(第24巻 第5号)

1990年5月15日発行(毎月1回15日発行)

1部定価 1,391円(本体1,350円)

(配送料61円)

年ぎめ予約購読料 15,960円
(本体15,495円)
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内(03)817-5600

本誌編集室直通(03)817-5703

(担当:渡邊・細田)

販売部直通(03)817-5659・5660

広告室直通(03)817-5696

ファクシミリ(03)815-7802

振替口座 東京7-96693番

印刷所 三報社印刷(株) 電話(03)637-0005

広告申込所 (株)医薬広告 電話(03)814-1971

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1990, Printed in Japan

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意ください。

● 編集顧問 ●

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
東京都立医療技術短期大学
学長

津 山 直 一
国立身体障害者リハビリテ-
ションセンター総長

横 山 巖
七沢リハビリテーション
病院脳血管センター院長
(五十音順、以下同じ)

● 編集委員 ●

安 藤 徳 彦
神奈川県総合リハビリテ-
ションセンター

上 田 敏
東京大学リハビリテ-
ション部

鶴 見 隆 正
高知医科大学附属病院

奈 良 勲
金沢大学医療技術短期大学部

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
東京都立医療技術短期大学

吉 尾 雅 春
協和会病院

● 編集同人 ●

伊 藤 日出男

今 川 忠 男

宇都宮 初 夫

大喜多 潤

大 田 近 雄

大 峯 三 郎

金 子 誠 喜

菊 地 延 子

木 山 喬 博

工 藤 俊 輔

佐々木 伸 一

高 田 京 子

高 橋 正 明

田 口 順 子

武 富 由 雄

寺 山 久美子

富 岡 詔 子

橋 元 隆

半 田 健 壽

藤 沢 しげ子

前 田 哲 男

牧 田 光 代

松 沢 博

丸 山 仁 司

宮 本 省 三

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

米 田 睦 男